

都羅の小径とそのほとり

①薄田泣菫生家



薄田泣菫顕彰会により、維持、管理されており、いつでも気軽に立ち寄ることができます。

②キリシタン灯籠



隠れキリシタンの遺物。大師堂と並んであります。山の中腹から移したものです。

③梅雲寺古墳

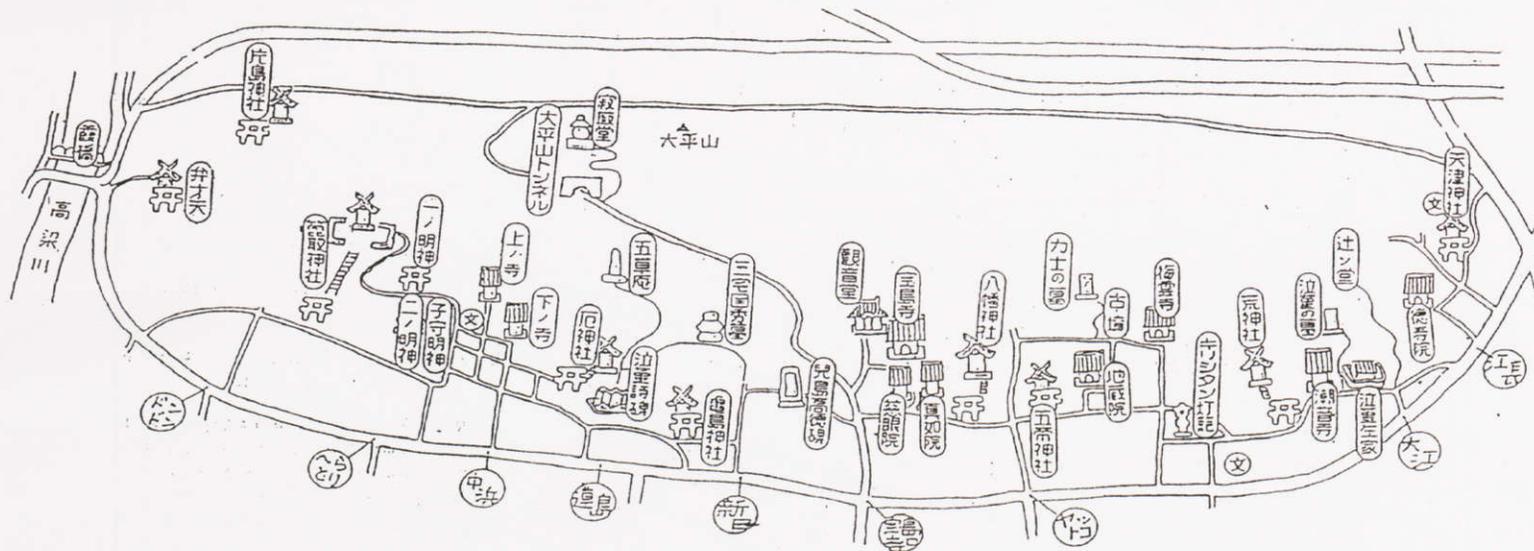


倉敷市指定の横穴式古墳。古墳時代後期(6~7世紀)のもの。補強工事が施されている。

④力士の墓



江戸時代末期の大阪相撲力士「岩戸藤東七の墓」関脇で亡くなった。



⑤矢柄公園



緑豊かな公園です。桜の木が多く春には花見が楽しめます。

連島がまだ瀬戸内海に浮かぶ島であったころ、人が通う道は山の中腹を通っていました。時代が変わり陸続きになり、江戸時代には山裾に道ができていました。都羅の小径は、この道のことで、ここでは連島東学区内の薄田泣菫生家から宝島寺までを紹介します。



⑥仁王門



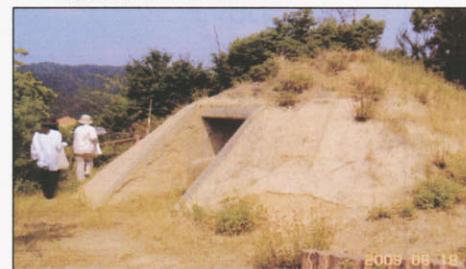
室町時代初期の建物で、市指定の重文。

⑦宝島寺



859年理源大師の開山 真言宗 中本山、仁和寺末、本尊は十一面観音。能書家としても知られる名僧寂庵の書をはじめ、名品が遺されている。

⑧茂浦1号墳



茂浦古墳群(全部で5基)の内の1つ。7世紀中頃の円墳。横穴式石室。石室を積み直し復元したもの。

【 参考文献 】

- 「都羅の小径」 安原 秀魁
- 「連島のはなし」 倉敷市連島公民館
- 「都羅の小径マップ」 社団法人倉敷観光協会